

講演1 「スキー場人身事故に係る実況見分の方法を交通事故から学ぶ」 要旨

講師：(公財)交通事故総合分析センター東京事務所交通事故調査員 大房雄二氏

1. 事故現場における留意事項

○負傷者の救護（遺体に対する配慮）

- 負傷者には直ちに救護措置
- 現場を変更しないように注意
- 調査上参考になることを素早く聴取
- 遺体に対する配慮 死亡か否かは医学的な判断による

○迅速，広範囲な現場保存

- 事故の痕跡は，すぐに散逸することから，迅速かつ，広範囲な現場保存

○的確な現場観察

- 関係者の話を鵜呑みにすることなく客観的な視点で広範囲に観察をする

○人的証拠の確保

- 当事者，目撃者，その他関係者の発見に努め，人定事項，発生状況，目撃状況等を聴取

2. 現場観察

○現場観察とは

事故現場において，事故に直接結びついている有形・無形の資料発見・収集すると共に，それらの資料が事故について物語る意味を読み取るために，五感の作用によって現場の物の存在及び状態を観察することを意味する。

事故の当事者の挙動を正確に証明するために，事故現場に残された痕跡等発見することが重要であることを肝に銘じ，現場観察を行う。

○現場観察の順序

現場の観察は，常に秩序正しく行う。一般的順序は次の通りである。

- 全体から細部へ
- 外周から現場中心へ
- 左から右へ
- 遠くから近くへ

○現場観察の一般的留意事項

- 信念を持った観察
- 冷静沈着な観察
- 先入観を排除した客観的な観察
- 広範囲な観察
- 反復かつ綿密な観察
- あらゆる観察手段・資機材の活用

3. 実況見分

○事故発生の経緯

事故に至るまでの現象を大別すると、「衝突前」「衝突」「衝突後」とに分けられる

走行 → (危険認知・事故回避) → 衝突 → (飛び出し) → 停止

このような、事故に至る一連の流れを考慮して、事故の見分を行う

○実況見分のポイント1

□衝突前

- 衝突前の行動、状況等を見分する：正常な状態だったか？
- 危険認知地点の特定：飲酒、脇見、携帯電話等過失の有無
- 事故回避地点の特定：危ないと思った地点

□衝突

- 衝突地点の特定：交通事故では、これが一番重要
- 衝突角度の特定：×地点から転倒地点方向
- 飛び出し角度の特定：進行方向から相対的な力の大きさ

□衝突後

- 最終停止（転倒）地点：聞き取りや痕跡から葉山に調査
- 損傷部位

○実況見分のポイント2

□測量・作図

- 精度の高い測量
- 縮尺した精密な痕跡の作図
- 現場写真の撮影
- 収集した情報を記録する

○実況見分のポイント3

□写真撮影

- ありのままの表現：場所的關係、特に人や物の位置、形状、色彩、状態等をありのままに表現する
- 組み写真：一枚一枚が明確な撮影目的を表現した物であると共に、現場写真全体として関連性を持った組み写真
- 全体から細部に：観察の進行に従って、順次、細部にわたるように撮影
- 相互に関連を持たせる：誰でも一見して現場の状況を容易に理解できるように撮影する
- 物の位置が特定できるように：基準となる事物の一部を入れて撮影する
- スケールを入れる：長さ、幅等を正確に表現するため、スケールを添えそのものに正対して撮影する